

一 ね



アメリカ・カナダ団少年会 少年少女練成会・第50回少年会総会

去る6月19日（金）～20日（土）にかけて、アメリカ・カナダ団少年会は、少年少女練成会および第50回少年会総会を賑やかに開催し、少年会員60名、育成会員を合わせて150名余が参加しました。

10-11 頁に関連記事

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.944



TenrikyoAmericaCanada.org

JULY
2026



つらつらせんがく 熟々浅学



— 日々の心遣い (2) —

今月は、青年会のインターナショナルひのきしん隊が結成されます。参加者たちが怪我なく勇んでひのきしんに励んでくれることを祈っています。

また、おやさと練成会が開催され、受講生たちはおさづけの理を拝戴予定です。無事によろばくとなり、道の御用の上に大いに活躍してくれることを願っています。

そして、今月末、こともおちばがえりが本部で開催されます。多くの子供たちが帰参してくれますが、怪我、事故などなく、無事に過ごしてもらいたいと願っています。また、世話に当たってくださるスタッフの皆様にも厚く御礼申し上げます。

更にはまた、来月 15 日にはアメリカ青年会総会が開催されます。一人でも多くの青年会員が参集して勇ませ合い、その後も「あらきとよりよう」としての本分を忘れずに、会活動を活発に推進していただきたいと願っています。

さて、以前に「日々の心遣い」(立教 189 年 5 月号)というタイトルで「熟々浅学」を書きました。その中で、ある高校のサッカー部の強さが「玄関での靴の脱ぎ方」によって判断できるというエピソードを紹介しました。

その話の主眼は、サッカーという団体競技に関わる生徒たちの結束力や、競技に対する真摯な姿勢にありました。乱れた靴を自ら進んで揃えるという行為は一見すると競技の技術とは無関係に思えるかもしれませんが、その一挙手一投足にこそ、チームとしての規律や目に見えない細部への配慮が宿ると思うのです。

その時は主に「団体競技における心のあり方」に視点を置いて話を進めましたが、このことは決して団体競技に限った話ではないと思います。個人競技、あるいは私たち一人ひとりが歩む人生の歩みにおいても、全く同様のことが言えるのではないかと思います。つまり、「日々の心遣い」こそが、その人の本質を形作るという

意味です。

個人競技といえば、私たち天理教信仰者にとって真っ先に思い浮かぶのは「柔道」ではないでしょうか。天理大学を始めとする天理柔道は、これまで数多くの名選手を輩出し、世界にその名を轟かせてきました。もちろん、柔道には団体戦があり、チームの絆が重要であることは言うまでもありませんが、畳の上に一步上がれば、そこは己一人で戦う世界ですから、基本的には個人競技のスポーツと言ってよいでしょう。

この柔道の世界において、オリンピックという最高峰の舞台で輝かしい実績を残した一人の天理柔道の選手(仮に A 選手とします)がいます。

A 選手は、オリンピックという極限の緊張感が漂う場所で、周囲を驚かせるある行動をとりました。それは、選手村でゴミを拾ったり、トイレのスリッパを揃えたりという行為でした。世界中から超一流のアスリートが集まり、誰もが自分の勝利のことだけを考えて殺気立っているような場所で、彼は日常と変わらぬ「心遣い」を実践していたのです。

その後、A 選手はそのオリンピックで見事に優勝を果たし、次の大会でも連覇を成し遂げ、柔道史に刻まれる偉業を達成しました。

もちろん、A 選手の実力があっての優勝でしたが、その実力者の彼が何故あのような大舞台でゴミ拾いやスリッパを揃えるという行動をしたのか。その答えは、彼が二度目のオリンピック出場を控えていた際に行われた、ある雑誌のインタビューの中にありました。

彼は次のように回想しています。

「(オリンピックの) 代表に決まってから、天理大学の理事長先生と食事をしたとき“一日一善をきなさい”と言われたんです。(中略) 理事長先生は“勝負には運があるけれど、徳を積むことで心が落ち着くんだよ”と」

(<https://number.bunshun.jp/articles/-/849052?page=3>)

この言葉こそが、彼の行動の源泉でした。A選手にとって、ゴミを拾うことやスリッパを揃えることは、単なるマナーや自己満足ではありませんでした。それは、いつ訪れるか分からない「勝負の運」を引き寄せ、同時に自分自身の心を最も安定した状態へと導くための「徳積み」の実践だったのではないのでしょうか。

オリンピックという場所がいかに特殊な環境であるか。それを象徴する、もう一つのエピソードがあります。オリンピック選手村でA選手と同じ部屋で過ごしていたルームメイトの選手（仮にB選手とします）の話です。

B選手は、男子柔道の先陣を切って試合に出場することになっていました。期待と重圧がのしかかる中、試合前日に彼はドーピング検査を受けなければならなくなりました。通常であれば何ら問題のない検査ですが、この時の状況は過酷でした。B選手は試合に向けた厳しい減量中で、体内の水分が枯渇しており、尿が出ない状態だったのです。検査を終えなければならない。しかし尿は出ない。翌日には大一番の試合が待っている。彼の精神は追い詰められていきました。そんな焦燥感から、B選手は部屋の中を延々と歩き回っていたそうです。

その様子を傍らで見ていたA選手は、「オリンピックはやばい（異常だ）」と思ったそうです。世界を制するような強靱な精神の持ち主であっても、一步歯車が狂えば、自分を制御できなくなるほどになる。それがオリンピックという魔物の棲む場所なのです。

後日、A選手がB選手に部屋をずっと歩き回っていた時のことを尋ねたところ、B選手からの返答は「全く覚えていない」というものでした。それほどまでに、B選手は精神的に限界まで追い詰められ、無意識の淵にいたのです。

このエピソードは、私たちに「心を安定させること」の難しさと、その大切さを教えてくれます。

人間が持てる力の100%を発揮するためには、どのような心理状態であるべきか。それは、決して昂ぶりすぎず、沈みすぎない「平常心」だと思うのです。特に、一瞬の判断が勝敗を分けるアスリートにとって「平常心」を保つことは重要な課題となります。

そこで大切なのが、先ほどの「徳を積む」という行為だと思うのです。

「徳を積む」という行為は、一見すると外向けの善行に見えます。しかし、その実質的な効能は、

自分の内側へと向かっているのではないのでしょうか。誰も見ていないところでゴミを拾う、他者のために祈るなど、こうした「一日一善」の積み重ねは、潜在意識の中に「自信」を形成するのではないのでしょうか。この「自信」は、傲慢な自信とは異なります。むしろ、「人事を尽くして天命を待つ」という謙虚な覚悟に近いものではないのでしょうか。

先程の理事長が言われた「徳を積むことで心が落ち着く」という言葉は、日々の生活の中で心を遣い、徳を積み上げてきたという自負が、いざという極限の場面において「平常心」を保つことができることを意味しているのかもしれない。

逆に言えば、日々の生活の乱れや心遣いが疎かになっていけば、いざという時に「自分はこれだけやった」という支えがありません。不安や焦燥という波に足元を掬われてしまうのでしょうか。

天理教の教えに照らして言えば、この「徳を積む」という行為が、親神様からの御守護を頂戴する元になるのでしょう。私たちは日々の暮らしの中で、ついつい目に見える結果や効率ばかりを追い求めてしまいます。しかし、親神様をご覧になっているのは、結果に至るまでの「心遣い」ではないのでしょうか。

A選手の「徳積み」は、スポーツの世界に限った話ではありません。私たちは、いつ「ふし」に出遭うのか分かりませんし、突然、B選手のように精神的に追い詰められることもあるでしょう。その時に自分を支えてくれるのは、それまでに積み上げてきた「徳」だと思うのです。どのような環境、どのような状態であっても、平常心を保つことは大切です。そのために大切な方法は「徳積み」のように思います。

大きなことを成し遂げる必要はありません。ささやかな、しかし真心を込めた普段の行為が、私たちの心の中に揺るぎない「芯」を形成するのではないのでしょうか。日々の心遣いを大切に、徳を積み上げていく。その歩みの先にこそ、親神様の大きな御守護が得られ、どのような荒波の中でも、安らかな心で歩んでいけるのではないのでしょうか。

深谷 洋

立教189年6月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、世界一れつの人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しめたいと、紋型ないところから、この世人間をお造りくだされ、旬刻限の到来と共に、教祖をやしろにこの世の表に現れて、だめの御教えをお啓きくださいました。爾来、御教えは世界に伸び広がり、アメリカ、カナダの地にも、教祖のひながたを頼りに、にをいがけ、おたすけに励む者をお与えただいておりますことは、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は、日々頂戴する御守護に感謝しつつ、世界にお見せくださるさまざまな事柄に対して思召を求めて、たすけの御用に努めさせていただいております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の六月の月次祭を執り行う目出度い日柄に当たりますので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、管内各地より参集しましたよふぼく、信者一同が、今月は大勢の少年会員と共に、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかに勇んでお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、少年会アメリカ団のおつとめまなび総会を開催することができまして、誠に有難うございました。将来の道を担う少年会員達が、世界たすけの御用の上に活躍できるよふぼくへと成人しますようお育ての程をお願い申し上げます。

また、来月にはおぢばにて、おやさ練成会、青年会インターナショナルひのきしん隊、こどもおぢばがえりが行われますが、管内から多くの参加者をお与えいただけますようお願い申し上げます。

私共は、にをいがけ、おたすけに励み、世界一れつの人々が互いにたすけ合って暮らす陽気ぐらしを目指し、また、次世代に道を伝えて、日々勇んで御用をつとめさせていただく所存でございます。何卒、親神様には、この真実の心をお受け取りくださいます、届かぬ点は幾重にもお仕込みくださり、一日でも早く、世界の人々が睦み合って暮らせる世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

6 月月次祭神殿講話

ハリウッド教会長

岡崎 宏子

本日は深谷庁長先生、奥様を筆頭に、アメリカ伝道庁の六月の月次祭をつとめ終えることができましたこと、大変有難く思います。今月のご講話の命をいただきましたので、精一杯つとめさせていただきます。

本日は、自分の進むべく道にたどり着くのまでに大変な苦勞をした者としてお話をさせていただきます。信仰の元に生まれながら、30 歳まで自分自身の信仰をつかみ取ることができませんでした。

皆様は、ご自身を天理教の信者だと認識されていますか？もしもそうだとしたら、何をもって、このお道が自分の道であると揺るぎのない確信を持てたのか、そしていつ神様を心底信じるに至りましたか。また、もしも自信をもって天理教徒だと言い切れないのであれば、なにがあなたを引き留めていますか。

私は、ネパールのカトマンズで生まれ育ち、14 年間で、両親と二人の妹とともに、そこで暮らしていました。私は父方、母方両方の信仰の四代目です。生まれながらにお道の家庭で育った多くの方々と同様、私も両親と共にお勤めをし、原典を読み、おつとめのをどりと鳴り物を学びました。私は自分は天理教だと認識していましたが、学校の天理教ではない友達から信仰について聞かれると、質問にうまく答えられずにいました。

家庭でも英語を使う環境で育ち、少年会のサンデースクールや TSA、おやさとしミナーの行事に参加できた方々や、Joy ワークショップ、2 日講習、修養会などで後に教理に触れることになった方々は、教えの基礎知識を身につけることができ、とても幸運なことだと思います。

しかし、天理教のことを知っているということ、お道が自分の信仰であると確信を持つということは、全くの別物だと私は思うのです。

人生の節目節目で、私の信仰を強固とする助けとなる出来事がいくつありました。

私の信仰に目覚め初めたのは、私が 11 歳くらいの頃でした。その頃の私は、学校で四年生まで ESL のクラスで英語を第二言語として学んでおり、アメリカ人の友達の言葉や文化を理解できませんでした。いつも、喪失感や遅れをとっている感覚を抱き、追いつくのに必死でいました。普段から自分の人生に満足できず、この世界で一体何をしているのか、なぜ他の人達のようになれないのか、そういったことを考えていました。父は非常に多忙で、あまり一緒に多くの時間を過ごすことができませんでしたが、ある時話ができる機会があった際に、親神様は私たちが陽気ぐらしをするのをご覧になるために、私たちをお創りになられたのだと、そしてそれこそが、私たちの存在の意義であると教えてくれました。人生のゴールと目的を知ると



いうことは非常に力強いものでした。自分の信仰について、まだまだ知らないことや理解できていないことが多かったものの、その知識が私の支えとなり、信仰の土台となりました。

月日にわにんけんはじめかけたのわ

よふきゆさんがみたいゆへから 14 号 25

私が通っていたアメリカンスクールは 9 年生までしかありませんでした。ですから、その後は日本の学校に通うことになりました。以前こどもおちばがえりに参加した時同様、母と二人の妹たちと共に天理へ行きましたが、この時は、夏が終わると、みんなはネパールへ帰り、私一人話所に残りました。母は私に手紙を保管できるようにバインダーを渡してくれ、いつも手紙をルーズリーフに書いてくれました。14 歳の子どもと離れ、手紙で人生について教え、お道の教えを伝えようとしていたのです。想像できますか？

家庭で両親と日本語で会話をしていたとはいえ、私の読み書きは学年にふさわしいレベルではありませんでした。放課後部活動などのスポーツを楽しむのではなく、毎日海外布教伝道部で個別指導を受けなければなりません。二年生の漢字から始め、毎日ドリルに取り組みました。学校では、他の生徒たちが、悪い言葉を英語でどういうのか教える、と言ってきたり、上級生達からは、先輩に対する敬意を示すきりがわかっていないことについて叱られました。それから、高校入試対策のため、8 年生にもどされたことはもうお話ししましたでしょうか？ここでもまた、私は遅れを取っており、追いつくために必死でした。自分自身や学業、人生全般に苛立ちを感じていました。

そんな中、15 歳のとき中学の修学旅行で遠方へ行き、天理教の教会に宿泊し、有名なお寺を訪問しました。ある夜、私は自分の意思で物事を選択し、すこし楽しんでいいだろうと、夜中に他の数名と抜け出して、自動販売機でビールを買い、バス停でた

むろしていました。土地勘もなく、裏に交番があるとは知る由もありませんでした。まもなく警察のバンが回ってきて、全員補導されました。警察署では、深夜徘徊及び飲酒したことを実筆の文書に書かされ、指紋も取られました。

天理へ戻ると、母から電話がかかってきました。当時はインターネットもフェイスタイムもありません。国際電話は高く、みんなたいてい手紙でやり取りをしていましたので、電話がかかってくるのは、とても稀なことでした。

その会話について覚えていることは、母は、私が自分のしたことが間違っていることをすでに自覚しているだろうと言い、叱らなかつたことです。他に母が何を言ったかはあまりよく覚えていませんが、両親、先生方、詰所の方々がはっきりさせてしまったということ、そして、学校や、学校に関連しているお道全体にまでも恥をたらせてしまったと感じました。

詰所で一緒に暮らしていた大人達はみなさん親切でしたが、家族ではありません。間違っていることがあれば、全員がそれぞれ違う時に教えてくれました。唯一の親戚で会えたのは、月に一度おぢばに帰ってきていた伯父のみでした。私には、話せる妹達や、抱きしめて慰めてくれる両親が近くにいませんでした。

私は神殿に行って回廊拭きをはじめました。本部の朝づとめに行き、教祖殿で教祖にお話しに行きました。教祖には悩みを打ち明け、何でも話すことができました。教祖の温かい存在感は、他からは見いだすことのできない慰めとなりました。

月日にハセかいちろうハミなわが子

かはいいゝばいこれが一ちよ

17号16

心がとても暗かった時期に、私は教祖にもたれることを学びました。

みかぐらうたのお歌が私を導いてくれることもありました。高3の夏(日本の学校は4月に始まるので、夏は学年の半分にあたります)両親のいるネパールを訪れました。高3の学生は、どの大学へ進学するか決めていました。両親は私に天理大学へ進学し、宗教学科の専攻をすすめました。私は他の大学でバイオテクノロジーを学びたかったので、その勧めに気乗りしていませんでした。まるで私の前には天理教のルールが敷かれていて、そのルールを辿る他ないように思えました。

そんなある日、母とてをどりをしているときに、九下り目六ツのお地が心に響きました。

六ッ　むりにでやうといふでない

こゝろさだめのつくまでハ

何も強制されておらず、心が定まり、自分が天理教に精進できるまでの時間を与えられているのだと親神様が私に伝えてくださっているように感じました。自分の都合の良いような解釈かもしれませんが、肩の荷がおり、勧められた道を受け入れられるようになりました。今振り返ってみると、天理大学ほど宗教を学ぶのに良い環境はないことがよくわかります。現在、教理を教えたり、翻訳する際に参考にしている本を書かれた天理教の著名な学者達を、私は先生に持つことができました。

大学1年生の頃、またもや自分の信仰の手助けと

なる出来事がありました。私はSATOMという海外布教を志す学生のサークルに所属しており、講師にハワイから、一瀬常德先生を迎え、講話を拝聴しました。質疑応答の機会があり、私は幼い頃から心の中でずっと燃っていた疑問である、「なぜ、御霊様に祈るのですか」と質問しました。学校の友人が家に来た時に、参拝場を見て、複数の神様に祈っているのだからまともな宗教ではないとふと口にしたことがありました。親神様と教祖は2つのお社に分かれてはいますが、その理は一つだということは理解していましたが、御霊様のお社に関しては疑問に思っていました。

一瀬先生は皆の前で私の質問を読み上げ、「そもそも、私たちは御霊様に祈っているのではなく、お礼を申し上げているのだから、これは質問にならない。」というようなことをおっしゃいました。素っ気ない返答でしたが、私にとっては自分の信仰についての納得のいかなかった部分、疑問に思っていたことに対する真相を明らかにされた大きなできごとでした。

両親からの信仰を自分のものにしきれなかったり、神様を信じきれない引き金となる質問、疑問、誤解など、人がどんな考えを抱えているのかは誰にもわかりません。ですから、私はいつも、信仰に関してなんでも質問することを勧めています。納得のいく答えが返ってこなかったなら、他の人にも尋ねてみてください。

このお話しの初めに、私は30歳にしてようやく信仰を掴んだとお伝えしました。それまでに私は何度も神様の存在の証を私にお見せください、と求めました。「私に稲妻を落として下さい。階段から突き落として下さい」などと。自分の信仰は天理教であるとは思っていましたが、神様の存在を感じるような経験をしたかったのです。これからする話は、ついにその経験をすることができました話です。

30歳の頃、私はなぜ結婚していないのか毎日考えていました。周りの友人たちは結婚していましたし、一番下の妹でさえ、すでに結婚していました。母はこの年までにすでに三人の子供を授かっていました。結婚することが誰にでも適しているとは限りませんし、教祖がこかん様に結婚せずにお屋敷で神様に仕えるよう勧められた実例もあります。しかし、私が育った環境がそうであったように、私の中で結婚＝安定と幸せでした。

私の両親は私たち姉妹を、日系アメリカ人で、二代真柱の通訳としてつとめられ、教会本部でごようをされた、内田ロイスさんのような役割を担える人材になれるよう望みを持って育ててくれました。タイミングや十分に神様にお仕えできなくなる状況などの理由により、両親はいくつかの私の結婚の機会に同意しませんでした。私はまるで激しい流れに逆らって泳いでいるように感じました。

その頃、婦人会のおつとめ総会で小鼓の役があたり、小鼓の知識のある知り合いにお願いし、何度か練習に付き合ってもらいました。総会はうまくいき、小鼓の先生のお礼を兼ね、その方を夕食に誘いました。居酒屋の前で待ち合わせることになりましたが、彼が到着するやいなや、フランス料理店のギフト券

があると言い、そこに連れて行ってくれました。この流れ、皆さんでしたらどう捉えますか？

その後、私たちは何度かコーヒーをしました。とても素敵な人でしたし、両親も気に入ってくれるような方でした。自分の気持ちが彼に深く傾く前に、教祖に相談に行きました。自分はずっと前からいずれば海外伝道に一生を尽くすつもりだった。そして今、それに専念する決心ができました。それを可能にしてくれる人と結婚させて下さい。小鼓の先生に、私たちの今後について尋ねる旨を教祖に伝えました。もしいい返事がもらえたら嬉しいが、うまくいかなければ、お見合いで最初に紹介された人と結婚します、と約束しました。

その日、小鼓の先生に「何度か一緒にコーヒーを飲んだりしていますが、この関係の今後はどう思っていますか」と尋ねてみると、深く頭をさげて「ごめんなさい」と言いました。ショックでした。「これから先、もっと一緒に時間を過ごしてもだめですか？」と尋ねましたが、彼はまた「ごめんなさい」と言うだけでした。地球上に私たち二人だけしか残っていないにしても、彼は私を選ばないと言われたかのように感じました。

私は家に帰り、泣き、お酒を飲みました。飲んで泣きました。翌朝、何もなかったかのように天理教語学院へ行き、生徒たちに英語を教え、また家に帰り、泣いてお酒を飲み、飲んで泣きました。これを繰り返した三日目に、井上昭夫先生から呼ばれました。先生がシンガポール出張所長を勤めておられた時、家族でおちばががえりの途中で寄らせていただいており、私が5歳の頃から存じ上げている先生です。連絡をいただいたのは、ちょうどその頃、井上先生が手掛けた行事の通訳を私が務めた後でしたので、その件だと思っていました。

伺ってみると、彼は私に「年はいくつになった？ なんて結婚してないんだ？」と尋ねました。年は30で、今までお付き合いした人との結婚の話がいくつかあったが、両親が喜んでくれなかったことを伝え、先生は「だれか紹介したろ」とおっしゃいました。

その後、小鼓の先生との関係がうまくいかなかった場合、紹介された方と結婚するという約束を教祖にした時から3日が経っていることにふと気がつきました。

しかし井上先生は、その時は誰を私に紹介するかまだ具体的に決めていませんでした。一ヶ月の間、何もお話がありませんでした。その間先生は、ロサンゼルスで青年会に対してお話をしに行かれました。当時の庁長先生は、独身の教会後継者が数人いて心配していると、次々と名前を挙げる中に岡崎マールンの名前が挙がっていました。その後、井上先生は本島大教会でも青年会に対してお話をされ、そこでも、未だ人生のパートナーを見つけられずにいる、婚期の年齢を上回り始めた後継者たちのことを心配されており、岡崎マールンの名前がここでも挙がっていました。

こうして紹介されたのがマールンでした。知らない人を紹介されるのだとてっきり思っていた私は、紹介されたのが友達のロクサンのお兄さんだったこ

とに驚きました。彼女は、私が TLI に来る数年前にそこで講師をしており、私のビリヤード仲間でした。私の妹もロクサンとは中学生からの友人で、ロサンゼルスで執り行われたマールンのもう一人の妹のジェーンとの結婚式にも出席した仲です。

赤いおてふりガイドを書いてくれたことに対して私がマールンにお礼を言った、最初の出会いから11年後に、私たちは結婚を前提に再び紹介されることとなりました。

私の両親は井上先生がマールンを紹介してくれたことを喜び、結婚にも賛成しました。友人や同僚たちも祝福してくれました。私は、力強く温かい流れに包まれ、やさしく運ばれているような感覚を強く感じ、心のやすらぎと幸せを感じました。私は親神様の紛れもない存在とお働きを感じ、この瞬間をもって、信仰が私のものになりました。

親神様は私に稲妻を落としたり、階段から転げ落としたりしませんでした。神様にお仕えすると心を定めた時に、誰とどこでつとめていけるのかお見せいただきました。神様は常に私たちに親心溢れるメッセージを送り続け、ご守護下さり、お守りくださっています。感覚を研ぎ澄ませば、見聞きする全

てから、神様の親心を感じ取ることができます。頭の固い私にも分かるように、神様は数々の私たちのご縁に取り巻く「偶然」を用意して下さいました。マールンの教会、サウザンバプティスト教会の創立日は私の誕生日と同じ1月11日。彼のお母さんの誕生日は三日前の1月8日で、ケイコという名前の妹がいます。私もケイコという名前の妹がいます。偶然と言えるでしょうか？ 更にこれなどどうでしょう？ 母が大学卒業後、海外部で勤務していた時に住んでいたのは親里2号館の3階、左側にある2つ目の部屋です。私がマールンを紹介された当時住んでいたのは？ まさに、2号館の3階、左側にある2つ目の部屋です。

もしもあなたがまだ、神様を経験していないというのなら、周りをよく見渡し、よく耳をすましてもまだ神様を見つけられないというのなら、もしかすると、ラジオの周波数があってないのかもしれないかもしれません。リモコンが間違っていないですか？ アプリはありますか？

明治20年1月13日のおさしづに、
「さあ／＼実があれば実があるで。実と言えば知るまい。真実というのは火、水、風。

押して願
さあ／＼実を買うのやで。価を以て実を買うのやで。」とあります。

みなさまの誠真実で親神様の実を買っていただき、神様の果てしない親心に目覚め、心の平穏と幸せを体験されますことを願います。

ご清聴いただきありがとうございます。





伝道庁連絡



6 月月次祭

祭主 庁長
 扈者 川上和海 林孝彦
 賛者 伊藤光春 雪本スティーブン
 指図方 国領ロバート
 神殿講話 岡崎宏子（英）

布教所事情

移転・布教所名変更・所長変更
 Joyous Fellowship Los Angeles
 所長：Ichise-Sizemore, Emily Mikiko
 祭典日：第2日曜日
 直属：池田大教会 所属：鶴一分教会

天理教語学院（TLI）日本語科出願

出願資格：次の条件（教育課程、日本語能力）をいずれも満たしていること

1. 本国で正規の課程による12年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者
2. 出願時に「日本語能力試験N5」または「N5相当」の日本語能力を有する者

出願に必要な書類として願書と共に日本語能力試験N5の合格証明書が必要となります。

- ・ TLIでは、日本語能力N5以上を有しない出願予定者に対し、出願前の5月から日本語科が提案する教材を用いた自習機会を設けていますが、8月1日～31日までに出席者全員がオンラインで受験が必要です。
- ・ 実力認定試験の結果、TLIがN5相当の日本語能力があると認定した場合に出願を受理する形とし、出願自体を妨げないように便宜を図る予定です。

願書の配布について：

- ・ 願書は4月25日よりダウンロード配布が開始されています。同時に、事前学習及び実力認定試験に関する案内も行っています。

出願締切：9月28日

詳細は、以下のサイトをご確認ください。

https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/?page_id=497

修養科スペイン語クラスについて

9月1日から11月27日まで、修養科スペイン語クラスがおちばにて開講されることになりましたので、お知らせします。日本国査証の必要な志願者は、お早めに伝道庁にお知らせください。

教人資格講習会、教会長資格検定講習会

8月27日よりの教人資格講習会の受講予定者は7月末までにアメリカ伝道庁までご連絡下さい。また、例年9月27日から、5名以上の受講者がいる場合に開講している教会長資格検定講習会英語クラスの日程が変更され、本年より10月27日から開講することになりました。受講予定者は9月末までに、ア

リカ伝道庁までご連絡下さい。

ハワイ洪水募金

ハワイの洪水被害への募金は、アメリカ伝道庁とハワイ伝道庁を合わせて\$3,840集まりました（内、アメリカ伝道庁から\$1,550）。アメリカ伝道庁に集まった寄付金は小原仁郎ハワイ伝道庁長に託し、ハワイ伝道庁より「Hawaii Community Foundation」に寄付されました。ご協力して下さった皆様に厚く御礼申し上げます。



各会連絡

布教委員会

・ 教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番をおつとめ頂き、有難うございます。以下に9月までの当番をお知らせ致します。

8月：岡崎宏子、田所レイ

9月：上杉浩司、川田一行

・ 10月より、伝道庁月次祭前日の土曜日、午後1時から1時間、伝道庁周辺でのにをいがけを実施させていただきます。行事との兼ね合いから、にをいがけ実施月は、1月、3月、4月、7月、10月12月の予定です。一人でも多くの方にご参加頂きますよう、予めご案内いたします。

教化育成委員会

・ 11月14日午前10時30分～午後4時まで、アメリカ伝道庁にてSoulFireを開催予定です。今回のテーマは「信仰に力を注ぎ、コミュニティの絆を強めよう」です。日英両方の教友を対象に行い、申込みは8月1日に受付を開始します。

・ 今月の伝道庁月次祭祭典後、TSAのベイクセールを行いました。今回集まったお金は、今年の冬季練成会の助成金となります。

広報委員会

・ 各地で活動されている方々の情報を「陽気ぐら

しだより / Joyous Life Here & There」として「一れつ・ニュースレター」に掲載し、管内の皆様と共有させていただきます。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

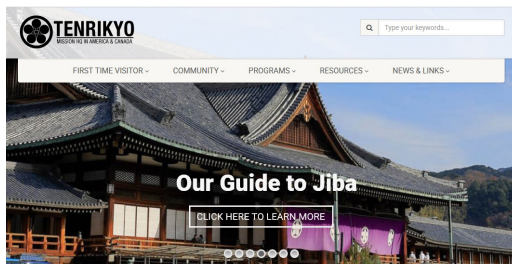
情報提供先

川上 (kamishuyo@hotmail.com)

林 (takhayashi@gmail.com)

- ・伝道庁ホームページは、管内の皆様にご活用いただけるように作成し、常にアップデートを努めており、「Our Guide to Jiba」が更にアップデートされております。また、教会長用ページから「にをいがけ用パンフレット」(海外部サイトより)にアクセスできるようになっております。(パスワードが分からない方は伝道庁にお尋ねください)是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々にも紹介いただきますようお願い致します。

Domain Name: TenrikyoAmericaCanada.org



Nioigake Pamphlets にをいがけ用パンフレット (海外部サイトより)

Taking difficulties as opportunities for mutual help

1. A Message from Heaven, Just for You!
2. Taking Difficulties as Opportunities for Mutual Help
3. We All "Have" Life, Which Has Lasted 3.5 Billion Years
4. Doing Something Good Rejuvenates You
5. It Is Possible to Use Your Own Mind But Not the Mind of Others
6. Happiness Comes To Us When Our Hearts Suffer It
7. Blessings of Food

The following is a story of a mother whose daughter was born with a severe disability:

The mother cried every day after she found out that her daughter was disabled. Since then, however, she, her husband, and others in her family have walked through life bravely while helping one another. Looking back over her life, she says with humor, "My daughter is like the sun to my family." Despite anxiety about the future, she and her family faced up to her daughter's disability and have been able to overcome difficulties with support from many people.

婦人会

- ・シアトル地区婦人会総会
2026年8月22日(土) 午前11時
於：ハイシアトル教会
- ・サンフランシスコ地区婦人会総会
2026年8月29日(土) 午前10時
於：マリーナ教会
- ・シカゴ地区婦人会総会
2026年8月30日(日) 午前10時30分
於：ミッドウエスト教会
- ・「みちのだい育み塾」
2026年10月17日(土) 午後1時～3時30分

於：伝道庁 MP ホール 2 階
内容：講話「おつとめ」、グループトーク
リフレッシュメント

対象：16歳～49歳までの婦人会会員

講話だけはどなたでも(男性も)拝聴可能。

対象外の方は申し込み不要。

講師：深谷洋庁長(日本語)/ 木村昌人主事(英語)

申込方法は、各地区責任者にお尋ねください。

締め切り：10月3日(土)

少年会

- ・少年少女練成会、及びおつとめまなび総会が6月19日(金)、6月20日(土)に伝道庁にて開催されました。Tenrikyo Creativeの皆様がビデオを収めてくださいましたので、こちらのリンクからご視聴ください：
<https://youtu.be/7VmTRUi030Q>
- ・アメリカ・カナダ・ハワイ団のこどもおぢばがえり・海外少年ひのきしん隊が7月24日(少ひは25日)から30日まで開催されます。



青年会

- ・アメリカ青年会総会を8月15日(土) 午前10時30分に、アメリカ伝道庁にて開催します。今年は青年会本部より委員をお迎えし開催します。総会後は行事、また夜にBBQをしますので、ご参加ください。

NY センター

- ・天理文化協会では、本年の子供クラスに150名が受講し、6月20日に修了しました。また、本年は5名の生徒が12年の学習を終え卒業しました。
- ・ニューヨーク地区から、15名の青年会員がインターナショナルひのきしん隊に参加し、17名の少年会員がこどもおぢばがえりに参加します。

アメリカ・カナダ団少年会 少年少女練成会・第 50 回少年会総会
6 月 19 日（金）～ 20 日（土）

アメリカ・カナダ団少年会は、6 月 19 日から 20 日にかけて、少年少女練成会および第 50 回少年会総会を開催し、少年会員 60 名、育成会員を合わせて 150 名余が参加しました。

初日の練成会では、「おつとめ」をテーマに、管内教会長よりその意味と意義について分かりやすい講話があり、会員たちはおつとめへの理解を深めました。続いて、おてふり、男鳴物、女鳴物の各班に分かれておつとめの練習を実施。翌日の総会で担当する役の稽古はもちろん、これまで経験したことのない鳴物にも積極的に挑戦しました。特に高学年の会員は、男鳴物では笛や小鼓、さらに普段触れる機会の少ない女鳴物の習得にも熱心に取り組みました。

その後、伝道庁で夕づとめをつとめ、夕食には総会前夜祭として賑やかなパーティーが開かれました。会員たちは、おいしい食事を囲みながらビンゴゲームを楽しみ、親睦を深めました。

翌 20 日に開催された第 50 回少年会総会では、前日の練成会で学んだ成果を生かし、おつとめ着を身に着けた会員一人ひとりが、神殿上段にておつとめまなびに真剣に取り組みました。各自が練習の成果を存分に発揮し、陽気で勇んだ素晴らしいおつとめまなびがつつとめられました。

総会終了後には夏祭りが催され、ゲームブースや綿菓子、アイスクリームなどが用意されました。会員たちは仲間とともに楽しいひとときを過ごし、笑顔あふれる二日間を締めくくりました。

行事の数日前には伝道庁近郊で大規模な火災が発生し、開催期間中も完全には鎮火していない状況が続いていました。そのため、煙の影響により総会後の夏祭りを屋外で実施できるか懸念されていましたが、最終決定を前に不思議と風向きが変わり、予定どおり屋外で開催することができました。親神様の火水風のご守護を感じさせていただく出来事でした。





TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED



SOULFIRE

TENRIKYO FAITH GATHERING

2026年11月14日(土)

10:30 AM - 16:00 PM

Tenrikyo Mission Headquarters of America & Canada
2727 East First Street, Los Angeles, CA 90033



@tenrikyo.faith.conference

<https://tenrikyoamericacanada.org/tfc>



www.facebook.com/soulfiretfc/